

JA全厚連情報



能登半島地震にDMAT派遣（JA岐阜厚生連・中濃厚生病院）

目 次

□ 令和6年度事業計画（素案）等について協議 事業企画委員会（医師PT）を開催	1
□ 令和6年度事業計画（案）について協議 厚生連常勤役員・参事会議を開催	4
・通信員だより	
ASHRAE The Overall Engineering Award of Excellence 世界最優秀賞を帯広厚生病院が受賞しました (帯広厚生病院)	7
第72回日本農村医学会学術総会を終えて（北秋田市民病院）	9
「リユーザブルアイソレーションガウン」を寄贈していただきました（由利組合総合病院）	10
土浦協同病院予防医療センターと本所広報部門功労賞受賞（JA茨城県厚生連）	11
JA常陸からの正月飾り（水戸協同病院）	12
高齢者を保護し警察から感謝状（水戸協同病院）	13
JA常陸青年部による農産物・加工品販売会（水戸協同病院）	14
農産物・加工品で医療従事者を激励（水戸協同病院）	15
大規模災害訓練を行いました（相模原協同病院）	16
クリスマス病棟訪問を行いました（伊勢原協同病院）	17
永年勤続者表彰式を行いました（JA富山厚生連）	18
山県市における災害医療救護訓練の実施について（西濃医療センター岐北厚生病院）	19
岐阜県内の厚生連病院が能登半島地震でDMAT派遣医療支援に従事（中濃厚生病院）	20
情報共有会開催（JA静岡厚生連清水厚生病院）	21
不審者対応の訓練実施（JA静岡厚生連清水厚生病院）	22
減塩教室開催（JA静岡厚生連遠州病院）	23
能登半島地震におけるDMATの派遣（松阪中央総合病院）	24



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



令和 6 年度事業計画（素案）等について協議

事業企画委員会（医師 P T）を開催

令和 5 年 12 月 13 日、本会は大手町の J A ビルにおいて、事業企画委員会（医療事業部門医師 P T）を開催した。

会議では、① J A 全厚連令和 6 年度事業計画（素案）、②厚生事業に係る要請活動、③会員厚生連間における情報の共有、④厚生連からの照会事項の記録の共有、⑤医療用物資の国備蓄品の売却事業—等について協議が行われた。

1 事業計画の概要は、以下のとおりである。

- （1）令和 6 年度が、診療報酬及び介護報酬の同時改定となることから、各部門の実務者を対象とし情報提供や意見交換の場として厚生連医療スタッフ応援プログラムの運営に取り組むこと
- （2）新たな取組みとして、国（経済産業省）が推進している「健康経営（※）」への取組みとして、J A、連合会及び農業法人の職員の健康づくりに貢献するため、健康経営について検討（情報収集）等を行うこと

※「健康経営とは」経済産業省 H P（抜粋）

「健康経営」とは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながると期待されます。

健康経営は、日本再興戦略、未来投資戦略に位置づけられた「国民の健康寿命の延伸」に関する取り組みの一つです。

- （3）法人税非課税要件の管理については、令和 6 年度に法人税非課税措置の継続に係る財務大臣の承認申請を行う厚生連が 25 に及ぶことから、これに係る本会の業務量が増加することとなる。また、申請には期限があることもあり、本会の県担当制を通じて申請手続きを支援していくこと
- （4）厚生事業審議会答申を受けた事務所移転の検討については、当該事務所の管理に係る経費の削減や会員の利便性を総合的に勘案したうえで事務所移転の検討を行っていくこと

- 2 令和6年度税制改正要望として、有償病床割合の見直しについて取り組んできたところであるが、12月13日に自民党税制調査会において採択されたところであり、その経緯・経過を説明した。

令和5年4月	JA全中に要望書（案）提出
5月	自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の現地視察（愛知県厚生連江南厚生病院）において、差額ベッド制限の緩和を要請
9月	自民党議員連盟「農民の健康を創る会」の現地視察（北海道厚生連旭川厚生病院）において、差額ベッド制限の緩和を要請
10月	JA全中理事会において要望事項を決定
11月	自民党議員連盟「農民の健康を創る会」総会において、差額ベッド制限の緩和を要請
12月	自民党税制調査会で、差額ベッド制限の緩和が採択
12月	令和6年度税制改正大綱を閣議決定

- 3 厚生連からの照会事項の記録の共有については、各厚生連から連絡があった照会事項に関し、根拠等を明確にしながら対応しているところであるが、それらの共有方法や手順等について説明した。
- 4 医療用物資の国備蓄品の売却事業については、厚生連の利用の可能性を含め意見交換が行われた。
- 5 2024年4月から始まる医師の働き方改革を背景に、医師や看護師といった医療従事者の説明業務の負担軽減、効率化を目指し検討を進めている TOPPAN 株式会社より情報提供を受けた。

デジタルクローンを利用し、個別の説明内容に応じた説明動画を自動生成し、視聴が可能となるサービス。

参加した委員の関心は高く、実用化を想定した質問なども寄せられていた。

令和5年度事業企画委員会 名簿（医師 PT 部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

【参考】

令和5年度事業企画委員会 名簿（実務者 PT 部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
庄山 隆裕	三重県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

令和5年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務

令和6年度事業計画（案）について協議

厚生連常勤役員・参事会議を開催

令和6年1月24日に東京・大手町・KKRホテル東京 11階「孔雀の間」において、厚生連常勤役員・参事会議を開催した。

会議に先立ち、渡辺重行氏（JA茨城県厚生連 総合病院水戸協同病院病院長、筑波大学名誉教授）が「水戸協同病院・筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターのご紹介」をテーマに講演を行った。

水戸協同病院では、大学附属病院の施設である教育センターを設け、大学病院本院や一般病院で実現困難な新しい診療体制と臨床研修プログラムを運営している。

講演では、教育センターの開設経過や理念を説明するとともに、水戸協同病院における医師の働き方改革への対応について説明いただいた。働き方改革への対応では、臨床研修医師の労働時間と基本的臨床能力との関係性の研究結果も説明された。

出席者からは「医学部（医局）との関係性」や「教育センターとしての運営方法」について質問があった。



講演の様子

会議の冒頭では、令和6年能登半島地震におけるJA厚生連の対応等について報告を行った。

2. 厚生連の対応等

(1) 厚生連施設からの職員の派遣状況 [1月23日 12時 調査時点]

DMAT等の職員の派遣 **派遣総数328名(64班)**

厚生連名	派遣元施設名	派遣内容	厚生連名	派遣元施設名	派遣内容	厚生連名	派遣元施設名	派遣内容
北海道	帯広厚生病院	8名 (2班)	佐野	佐野厚生総合病院	5名 (1班)	愛知	安城更生病院	10名 (2班)
	帯広厚生病院	1名 (注1)		佐野厚生総合病院	1名 (ナース)		江南厚生病院	6名 (1班)
秋田	能代厚生医療センター	3名 (1班)	神奈川	相模原協同病院	5名 (1班)		江南厚生病院	2名 (ナース)
	能代厚生医療センター	1名 (JMAT)	長野	佐久医療センター	16名 (3班)		海南病院	8名 (2班)
	秋田厚生医療センター	8名 (2班)		佐久医療センター	2名 (ナース)		豊田厚生病院	9名 (2班)
	大曲厚生医療センター	4名 (1班)		北信総合病院	14名 (3班)		稲沢厚生病院	5名 (1班)
	平鹿総合病院	4名 (1班)		北信総合病院	4名 (ナース)		知多厚生病院	5名 (1班)
	由利組合総合病院	6名 (1班)		篠ノ井総合病院	15名 (3班)		足助病院	1名 (栄養)
	北秋田市民病院	5名 (1班)		篠ノ井総合病院	1名 (ナース)	三重	松阪中央総合病院	7名 (ナース)
	雄勝中央病院	5名 (JMAT)		あづみ病院	1名 (MSW)		松阪中央総合病院	15名 (4班)
	かづの厚生病院	4名 (1班)	新潟	糸魚川総合病院	4名 (1班)		鈴鹿中央総合病院	11名 (3班)
福島	白河厚生総合病院	5名 (1班)		柏崎総合医療センター	4名 (1班)		鈴鹿中央総合病院	1名 (ナース)
茨城	総合病院土浦協同病院	10名 (2班)		村上総合病院	4名 (1班)		恵野厚生病院	3名 (注2)
	JAとりで総合医療センター	5名 (1班)		佐渡総合病院	10名 (2班)		いなべ総合病院	5名 (1班)
	茨城西南医療センター病院	4名 (1班)	富山	厚生連高岡病院	15名 (3班)		大台厚生病院	2名 (ナース)
	水戸協同病院	1名 (ナース)	岐阜	中濃厚生病院	13名 (3班)	広島	広島総合病院	4名 (1班)
上野賀	上野賀総合病院	4名 (1班)		久美愛厚生病院	6名 (1班)	山口	周東総合病院	5名 (1班)
	上野賀総合病院	1名 (ナース)		西濃厚生病院	10名 (2班)	徳島	阿南医療センター	4名 (1班)
							吉野川医療センター	5名 (JMAT)

注1 医師1名（統括DMAT有資格者）が施設医務課DMAT活動拠点本部に残り、主に病院支援や情報収集等のロジスティクスを専門とした活動を行うDMATロジスティックチームとして活動
 注2 厚生連内の他病院のDMATチームに職員を派遣
 注 JMAT（日本医師会災害医療チーム）として活動、ロジ（ロジスティック（業務調整員）として活動）、栄養（JDA-DAT（栄養士学会災害派遣）として活動）、ナース（災害支援ナースとして活動）、MSW（災害福祉広域支援ネットワークとして活動）

7

(2) 令和6年能登半島地震のDMAT活動状況 [1月23日 12時 現在]

日付	活動中のDMAT数			厚生連派遣（全厚連調査）			
	公表時点	派遣総数	うち病院	派遣数（総数）	派遣数（うち病院）	厚生連の割合（総数）	厚生連の割合（うち病院）
1月1日	22:00	9	5	-	-	-	-
1月2日	5:00	12	7	-	-	-	-
1月2日	10:00	18	12	15	11	83.33	91.67
1月2日	14:00	27	18			55.56	61.11
1月3日	4:00	38	27	15	13	39.47	48.15
1月4日	16:00	89	68	27	23	30.34	33.82
1月5日	11:00	148	118	24	22	16.22	18.64
1月9日	12:00	153	123	16	16	10.46	13.01
1月10日	11:30	149	118	15	14	10.07	11.86
1月11日	12:00	156	117	16	13	10.26	11.11
1月12日	12:00	249	208	18	17	7.23	8.17
1月15日	12:00	206	167	10	7	4.85	4.19
1月16日	12:30	181	142	9	6	4.97	4.23
1月17日	6:00	199	162	8	6	4.02	3.70
1月18日	6:00	126	81	10	7	7.94	8.64
1月19日	6:00	166	114	9	7	5.42	6.14
1月22日	6:00	149	118	10	7	6.71	5.93
1月23日	6:00	161	125	9	7	5.59	5.60

※ 出典：厚生労働省「石川県能登地方を震源とする地震による被害状況等について」https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37198.html

※ 全厚連調査は活動日のみのため、厚労省の公表時点とは異なる。

【参考】災害拠点病院数（令和5年4月1日時点） 770病院（厚生連45病院5.8%）

DMATの登録医療機関数 838施設（厚生連48病院（5.7%））EMISより

8

令和6年能登半島地震におけるJA厚生連の対応等について 資料抜粋

その後、(1) JA全厚連 令和6年度事業計画(案)、(2) 厚生事業に係る要請活動、(3) 医療用物資の国備蓄品の売却事業、(4) 厚生連の令和5年度12月末経営収支状況、(5) 令和6年度JA全厚連主要会議日程―等に関し協議・報告を行った。

(1) では、令和6年度の重点実施項目について説明を行った。令和6年度は第30回JA全国大会が開催されることを踏まえ、JA職員・連合会職員の健康に貢献するため、健康経営の取り組みを広めていきたいと説明した。

また、土岐太郎氏(厚生労働省保険局医療介護連携政策課保険データ企画室総括調整官)が「マイナ保険証の利用促進に向けてお願いしたい取組」について説明を行った。

厚生連からは、巡回健診におけるマイナ保険証への対応について質問が出された。

厚生労働省 ひとくらし、あふれる未来を
Ministry of Health, Labour and Welfare

マイナ保険証の利用促進に向けてお願いしたい取組について

厚生労働省 保険局 医療介護連携政策課
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

マイナ保険証の利用促進に向けてお願いしたい取組

- 全ての医療機関での専用レーン設置**
 - 現行保険証が令和6年12月2日に発行停止されることが決定し、その後はマイナ保険証で受診する患者が激増になることから、できる限り早期にそうした患者がスムーズに受診できる体制を整備する必要。
 - まずは、法人の中で先行事例となる医療機関を少なくとも1以上選定し、1月中旬に運用開始していただきたい。
 - 2月までには、外来患者が極めて少ない医療機関以外の全ての医療機関において専用レーンの運用を開始していただきたい。
- 医療機関HPの外來案内ページでの周知**
 - 専用レーンを設置しても、そもそも患者にマイナ保険証を持参していただかなければ利用率の向上は見込めないことから、各医療機関HPの外來案内ページにおいて、持参するものとして「保険証」ではなく「マイナンバーカード」を案内していただきたい。
 - 必要に応じて、顔認証付きカードリーダーの利用方法を解説したYouTube動画を活用いただきたい
(マイナ保険証の医療機関や薬局での使い方 | マイナンバーカードの健康保険証利用 - YouTube : https://www.youtube.com/watch?v=xm5yq_1d83c)
- マイナ保険証利用促進セミナー等の視察**
 - 令和5年中にマイナ保険証利用促進支援金についてQ&Aなども盛り込んでわかりやすく解説した動画を配信しているのご活用いただくとともに、1月12日(金)にはマイナ保険証利用促進セミナーをオンラインで開催、アーカイブ配信を行ったので是非ご覧いただきたい。
 - (オンライン資格確認の導入について「医療機関・薬局・システムベンダー向け」| 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08280.html)

改正マイナンバー法の施行

○ 健康保険証の廃止を定めるマイナンバー法等の一部改正法について、施行期日を令和6年12月2日とする施行期日政令が閣議決定・公布。
現行の健康保険証の発行については、**令和6年12月2日より終了し、マイナ保険証を基本とする仕組みに移行。**

国が先頭に立って、医療機関・薬局、保険者、経済界が一丸となり、より多くの国民の皆様がマイナ保険証を利用し、メリットを実感していただけるよう、あらゆる手段を通じてマイナ保険証の利用促進を行っていく。

マイナ保険証の利用促進について

普及しない要因	対策
- 窓口で「保険証お持ちですか?」と聞いている - 医療機関のHPでマイナカードの持参を案内していない - 診療券との一体化や会計システムとの連携の改修費用等のコスト	医療機関・薬局 利用率目標の設定・インセンティブ等 1月からの利用率増加に応じた支援金 - 診療券との一体化等への補助金 - R6改定で、利用実績に応じた評価を検討中 - 国所管(設定済)・その他(目標設定に向け利用率実績を通知) - 専用レーン・説明員の配置 窓口対応の見直し - 窓口での声かけを「マイナンバーカード(マイナ保険証)、お持ちですか?」へ - HPの外來案内ページでマイナンバーカードの持参を案内するよう要請 - チラシ、ポスター等の院内配布・掲示等 利用できなかった事例への対応 - コールセンターへの情報提供に基づき地方厚生局から事実調査等
- 特に若年層で、マイナカードの持参・携行習慣がない - 個人への紐付け問題などトラブルへの不安 - 保険証廃止の現実感がない	保険者・被保険者 保険者による被保険者への働きかけ - 利用率の目標達成・インセンティブ交付金等での実績評価 - 動画広告の集客企画、全国公募職員への利用の呼びかけ - メール送信等を通じた被保険者への利用助奨 こども医療費などの受給者証の一体化の取組促進 - R5補正予算を活用し、約400自治体、約5万医療機関等を目標 マイナ保険証全国デモ体験会・テレビCM等による広報(2月~) - 月10回程度の実施で、全国の商業施設など約100カ所での開催を予定 - CM、デジタル広告等で「医療にも活用」にできます」などのメッセージでPR



ASHRAE The Overall Engineering Award of Excellence 世界最優秀賞を帯広厚生病院が受賞しました

(JA北海道厚生連・帯広厚生病院)

ASHRAE Technology Award は、居住者の快適性、室内空気質、および省エネルギー分野での革新的な計画、設計やコミッショニングプロセス に関する業績、また、画期的な省エネルギー性能や地球温暖化防止に貢献する技術開発を達成した冷凍機や空調機に関する ASHRAE 会員による優れた業績を表彰することを目的としています。

今回「帯広厚生病院」(大瀧雅文病院長)は新築医療施設部門で第1位となり、今年の1位受賞の10件の中から最優秀賞に選出して頂きました。



左:アメリカシカゴで開催された授賞式の様子
(左から3人目:西本会長、同2人目:大瀧院長(帯広厚生病院))

<ASHRAE とは>

アメリカ冷凍暖房空調学会 (American Society of Heating, Refrigerating and Air-Conditioning Engineers) は、暖房、換気、空調、冷凍などに関わるあらゆる個人や団体のための国際的学会。全世界に約 55,000 名の会員がおり、本部はジョージア州アトランタにある。

<The Overall Engineering Award of Excellence とは>

業務用建築、公共建築（教育施設または他用途施設）、医療施設、産業施設、集会施設、住宅の 6 部門と各部門の新築、既築、省エネ・コミッショニングの 3 つのカテゴリーでの各 1 位受賞者の中での最優秀賞。

【受賞評価対象】

多くの医療施設では年間を通じて給湯加熱や冬季の暖房用の温熱源を必要としている一方で、電気室や医療機器や冷蔵庫等から生じる冷房排熱を大気に放出しています。今回帯広厚生病院で採用したシステムは、これらの冷房排熱を回収して温熱を供給することで大幅なガス燃料消費量削減を実現しました。CO2 排出量の抑制に成功し、脱炭素社会の実現に貢献できる技術であることを証明した点がカーボンニュートラルを目指すアメリカや世界の人達にも評価され、ASHRAE の最優秀賞受賞に繋がりました。



右:表彰盾

(三原真樹通信員)

第72回日本農村医学会学術総会を終えて

(J A秋田厚生連・北秋田市民病院)

第72回日本農村医学会学術総会（学会長：神谷彰・北秋田市民病院長）が令和5年10月19日・20日の両日に、秋田市のあきた芸術劇場ミルハス、にぎわい交流館AUで開催され、関係機関の皆様からの多くのご支援、ご協力のもと盛会裏に学術総会を終えることができました。昨年に続き新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえでの開催となり、本県では第64回由利組合総合病院開催以来8年ぶり、通算7回目の開催となりました。

今回は「SDGsで考える少子高齢化における医療～咲き誇れ秋田～」をテーマとし、特別講演や教育講演を選定しました。また地域、多職種連携の重要性も踏まえたシンポジウムも行われました。

発表演題は学会長講演、金井賞受賞講演、特別講演5題、教育講演2題、文化講演1題、シンポジウム2題、ランチョンセミナー7題、一般演題356題（研修医セッション33題、口演234題、ポスター89題）となりました。新型インフルエンザ等対策推進会議基本対処方針分科会会長としてご活躍された公益財団法人結核予防会の尾身茂理事長からは、コロナ禍の3年間について、また、秋田県農林水産部の齋藤正和部長からは、秋田米新ブランド「サキホコレ」の開発秘話などのご講演をいただきました。

参加は825名（県外641名）を数え、2日目はあいにく雨の天気でしたが、秋の秋田を存分に楽しんでいただけたものと思います。また、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行されて以来、公的に行動制限を求められることがなくなったことから、今年は会員懇親会も開催しました。おかげさまで170名に参加いただき、参加者同士の懇親を深めることができました。

結びに、ご参加いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。



第72回日本農村医学会開催の様子

(淡路明美通信員)

「リ्यूザブルアイソレーションガウン」を 寄贈していただきました

(JA秋田厚生連・由利組合総合病院)

令和5年11月29日、ナガイレーベン株式会社様から「リ्यूザブルアイソレーションガウン」を寄贈していただきました。今回の寄贈は、秋田県厚生連（小野地章一・代表理事理事長）の9病院に対し合計900枚のガウンを寄贈していただいたもので、贈呈式当日は、仙台市から東北支店の間瀬修支店長と市村亮磨主任が来院してくださり、9病院を代表して由利組合総合病院（軽部彰宏病院長）の佐々木副院長・看護部長と看護副部長2名が、M・Lの各サイズ50枚、計100枚のガウンを受け取りました。

リ्यूザブルとは「再使用・再利用できる」という意味です。従来アイソレーションガウンは使用後に廃棄するディスポーザブルが多いのですが、このガウンは洗って繰り返し使用することができます。具体的に「感染症患者のケア」「入浴介助」「洗浄業務」など、様々な場面で活用することができます。

寄贈にあたり、間瀬支店長からは、「当社は、新型コロナウイルス感染症を起因とする医療用ガウン不足という問題に対応するため、繰り返し洗濯をして使用できるリ्यूザブルガウンの生産を開始しました。新型コロナの影響や制限は緩和されてきましたが、この製品が医療機関の様々な用途及び今後の災害備蓄用として、また、リ्यूザブルへの切り替えにより、SDGsの観点からも医療機関に貢献できると考え、今回の寄贈という運びになりました。今後も当社は、グループの強みを活かした製品作りに注力し、医療現場を支える取り組みを実施することで社会貢献を推進していきたい」とお話しいただきました。改めてこの度の寄贈に深く感謝を申し上げます。



贈呈式の様子

(淡路明美通信員)

土浦協同病院予防医療センターと本所広報部門 功労賞受賞

(J A茨城県厚生連)

令和5年12月28日、茨城県J A会館では各会・関係団体仕事納めの会が開催され、合わせてJ Aグループ茨城功労賞の表彰式が行われました。J A茨城県厚生連(長谷川博史・代表理事理事長)では、土浦協同病院(河内敏行病院長)予防医療センター及び本所広報部門が受賞しました。

土浦協同病院予防医療センターは、幅広い人間ドックメニューを展開し地域の健康維持と発展に努めていること、本所広報部門は、公的病院として地域医療を担う本会事業の周知を目的としたコンセプトムービー、及び医療現場におけるスタッフの日常の様子として職員1日密着動画を作成したことが称えられました。

加藤洋子予防医療センター課長は「身に余る賞をいただき、感謝しています。これからも、疾病の予防や早期発見に励んでいきます」、また、酒井一彦 本所総務部審査役は「栄えある賞をいただき大変恐縮です。今回の動画は、本会としても大きなPRツールとなり、大きな一歩となりました」と話しました。



加藤洋子 土浦協同病院予防医療センター課長(右)と酒井一彦 本所総務部審査役(左)

(酒井一彦通信員)

J A常陸からの正月飾り

(J A茨城県厚生連・水戸協同病院)

J A茨城県厚生連（長谷川博史・代表理事理事長）が運営する総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）では、J A常陸奥久慈支部から正月飾りが贈られました。

桜、梅、臘梅（ろうばい）、しだれ柳等から成る飾りは縦横約3メートルと非常に大きく正面玄関に設置され、病院を訪れた患者さんやご家族の方から好評を得ました。

同支部の笹嶋誠一装飾部長は、「インフルエンザや新型コロナウイルス等が活発で、感染予防のため医療機関は緊張感に包まれている。そのような中で、飾りを見て少しでも正月気分を味わい明るくなってもらいたい」と話しました。

また、本会他各連合会が集う茨城県J A会館入口にも同じように飾りが設置され、会館を訪れた方々を魅了しました。



贈られた正月飾り 水戸協同病院正面玄関



茨城県JA会館入口

(酒井一彦通信員)

高齢者を保護し警察から感謝状

(J A茨城県厚生連・水戸協同病院)

深夜に国道を歩いていた高齢者を保護したことで、総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）の職員 中西達也さん（32）に対し、常陸太田警察署から感謝状が贈られました。

中西さんは、帰宅途中であった12月13日0時ころ、常陸太田市内の国道349号線沿いで、靴も履かずに1人で歩いていた80代の女性を発見しました。「寒い中、どちらから来たのですか？」と声をかけ、自車に乗せて家まで送ろうとしたものの、住所が不明であったため、近くのコンビニエンスストアから警察へ連絡し受け入れを依頼しました。

関口一将 常陸太田市警察署長は、一連の行動を称え「冬季の深夜ということもあり、そのままさまよっていたら非常に危険な状況であったと思います。自ら声をかけたという勇気ある行動に感謝します」と語り、中西さんは「病院の職員ということもあり、普段から患者さんと接することが多いので、抵抗もなく声をかけられました。大事に至らず、本当に良かったです」と話しました。



中西達也さん(左)と関口一将 常陸太田市警察署長(右)

(酒井一彦通信員)

J A 常陸青年部による農産物・加工品販売会

(J A 茨城県厚生連・水戸協同病院)

1 月 19 日、総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）の玄関で、J A 常陸青年部による販売会が行われました。

県北地域の同 J A 管内には様々な農産物があり、それらを消費者に知ってほしいという思いから今回の販売会が実現となりました。大子町や常陸大宮市における農産物や加工品として、奥久慈りんご、ねぎ、リーキ（西洋ねぎ）、いちご、リンゴジュース、アップルパイ、刺身こんにゃくなどの多くの品物が出揃い、病院に訪れた方だけでなく地元商店街の方も集まり、「定期的に開催してほしい」といった声も聞かれ大盛況となりました。

青年部の菊池常昭委員長は「今後も茨城県北地域の農業を盛り上げる活動を行い、私たちが育ててきた農産物や加工品で消費者の方々に喜んでいただければ幸いです」と話しました。



大盛況となった病院前での販売会の様子

(酒井一彦通信員)

農産物・加工品で医療従事者を激励

(J A茨城県厚生連・水戸協同病院)

J A茨城県厚生連が運営する水戸協同病院（渡辺重行病院長）では、1月19日、J A常陸青年部会から農産物や加工品が贈呈されました。

インフルエンザや新型コロナウイルスなどが流行し、自身も感染するリスクを抱えながら懸命に業務に取り組む医療従事者への激励として、いちご、リンゴジュース、刺身こんにやく、ほしいものが贈られました。

同部会の菊池常昭委員長は「私たちが生産した農産物や加工品で、医療従事者の方々に笑顔になってもらいたい」と話し、渡辺重行病院長は「この時期、感染予防のために職員は神経過敏になっている。このような労いは本当に心が和む」と感謝の意を述べました。



贈呈時の様子

写真左から 飯島幸広事務部長、山本祐美子看護部長、渡辺重行病院長、
菊池常昭青年部会委員長、皆川亮太青年部事務局担当

(酒井一彦通信員)

大規模災害訓練を行いました

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和 5 年 12 月 23 日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、相模原市内震度 6 強を想定とした大規模災害訓練を実施しました。被害状況の確認・報告訓練と机上訓練に基づいた災害対策本部及び各エリアの訓練を行いました。

自然災害が増えている中、訓練を行う事で災害への備えや知識を高め、有事の際に対応できるよう技術、知識を磨いていこうと思います。



災害対策本部

(生沼貴彦通信員)

クリスマス病棟訪問を行いました

(J A神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

令和5年12月25日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、サンタやトナカイ、ゆきだるまに扮した病院職員が、各病棟を訪問する「クリスマス病棟訪問」を行いました。

4年ぶりとなる訪問では、鎌田病院長をはじめとした病院職員が入院患者さん一人ひとりの枕元を訪ね、お見舞いの言葉やプレゼントを贈りました。

クリスマスプレゼントはキャンディーや栄養室手作りのクッキーで病院長やサンタの訪問とクリスマスプレゼントに、患者さんは笑顔を見せてくれました。



患者さんとの交流の様子

(生沼貴彦通信員)

永年勤続者表彰式を行いました

(J A 富山厚生連)

1月4日に令和5年度永年勤続者表彰式を開催しました。

J A 富山厚生連（高木茂・代表理事理事長）では、勤続20年目にこれまでの働きへの感謝と今後の期待を込めて表彰を行っています。高岡病院15名、滑川病院8名、本所1名に表彰状と記念品が授与され、慶びの日を迎えることができました。



永年勤続者表彰式の様子

(中西康志通信員)

山縣市における災害医療救護訓練の実施について

(J A岐阜厚生連・西濃医療センター岐北厚生病院)

令和5年11月11日に山縣市、山縣市医師会、岐阜市消防本部山県消防署、岐阜県岐阜保健所、J A岐阜厚生連(谷口直樹・代表理事理事長)・西濃医療センター岐北厚生病院(益田和明病院長)による、合同の大規模災害医療救護訓練が行われました。

山県市内で最大震度7の大規模地震が発生したことを想定し、市内では公民館にて救護所の開設訓練等が行われ、当院も患者の受入れ訓練を行いました。

地震により、軽症から重症の傷病者が来院・搬送されることを想定し、傷病者のトリアージ、トリアージにより色分けされたエリアごとの応急処置、EMISの入力、市及び消防署との通信等、実践しながらに訓練に取り組みました。

当院は、山県市内における中核病院であり、地域住民のために迅速な対応が出来るよう、今後も災害医療体制の整備に努めます。



訓練の様子

(寺師史華通信員)

岐阜県内の厚生連病院が能登半島地震で DMAT派遣医療支援に従事

(J A岐阜厚生連・中濃厚生病院)

J A岐阜厚生連（谷口直樹・代表理事理事長）の中濃厚生病院（関市）（勝村直樹病院長）は1月17日、能登半島地震の県DMAT（災害派遣医療チーム）第6次隊派遣の要請を受け、石川県輪島市に医師や看護師ら4名を派遣する出発式を行った。同病院としては第3陣の派遣となり、勝村直樹病院長が「病院に残る職員は皆さんの活躍と安全を願っている。被災地のため頑張ってきてほしい。」と激励し、チーム隊長を務める医師の仲田和彦副院長は「病院の代表として、被災者を一人でも多く救うため尽力したい。」と述べた。

J A岐阜厚生連では1月1日に発生した能登半島地震の医療支援活動のため、久美愛厚生病院（高山市）（山本昌幸病院長）、西濃厚生病院（大野町）（西脇伸二病院長）の2病院も5名～6名の体制でDMATを編成し、1月2日～7日にかけて被害の大きかった七尾市、珠洲市で負傷者の救護に従事した。

今後も3厚生連病院のDMATは、被災地への医療支援の派遣を予定している。



仲田副院長他3名のDMAT隊(左)と勝村病院長(右)

(寺師史華通信員)

情報共有会開催

(J A 静岡厚生連・ J A 静岡厚生連清水厚生病院)

J A 静岡厚生連清水厚生病院（西村明人病院長）では病院と近隣介護施設との間にホットラインと呼ばれる介護施設利用者の受診・入院相談窓口を設けています。

令和5年11月29日に近隣介護施設の看護師やケアマネジャー、介護員との情報共有会を開催し、今回は根岸主任看護師に、「急変の予兆」というテーマで講演していただきました。

日常生活を共にする介護施設職員の皆様が、利用者の普段と比べ「どこか違うな」と感じた場面で、急変の予兆に気づき、日常的な変化を捉え、“気づくための意識と行動”を身に付けるきっかけとなる研修会となりました。

今後も研修会、情報共有会を開催していきます。



情報共有会開催の様子

(望月俊宏通信員)

不審者対応の訓練実施

(J A 静岡厚生連・ J A 静岡厚生連清水厚生病院)

J A 静岡厚生連清水厚生病院（西村明人病院長）は、令和5年11月30日に清水警察署より講師を招き、不審者対応訓練を行いました。病院職員約50人が参加し、不審者が来院した場合の対応方法などを学びました。

参加者は実際にさすまたを手にとって扱い方を体験し、窓口で刃物を振り回す不審者を想定して、さすまたで取り押さえる訓練等を実施しました。

※さすまた：相手の動きを封じ込める道具



訓練の様子

(望月俊宏通信員)

減塩教室開催

(J A 静岡厚生連・ J A 静岡厚生連遠州病院)

J A 静岡厚生連遠州病院 (大石強病院長) では令和 5 年 12 月 4 日、7 日の 2 日間、血液浄化センターへ通院されている患者様、ご家族様を対象に栄養課 管理栄養士が減塩教室「塩分を控えておいしく食べる工夫」を開催しました。

調味料のかけ方、つけ方のポイント、想像以上に塩分を多く含む加工食に注意すること、食品の栄養成分表をよく見てどのくらいの塩分が含まれているか意識することの重要性などの話をしました。



減塩教室開催の様子

(望月俊宏通信員)

能登半島地震におけるDMA Tの派遣

(J A三重厚生連・松阪中央総合病院)

J A三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）が運営する松阪中央総合病院（田端正己病院長）は、1日に発生した能登半島地震を受け、厚生労働省DMA T事務局・三重県からの派遣要請に基づき、DMA T（災害派遣医療チーム）を派遣している。

2日に出発した第1班に続いて現時点（1月27日）で第5班を派遣しており、市立輪島病院や公立穴水総合病院で延べ20人の病院スタッフが活動を行った。

また、特別班として3人が石川県輪島市保健医療福祉調整本部、三重県DMA T調整本部での活動も行っている。

支援活動を行ったスタッフは「マスコミで報道されている以上に家屋倒壊や火災などによる被害は甚大で、一刻も早く必要な物資の確保、電力、水道などのインフラの迅速な復旧が求められている。また、避難が長期化しており、体調不良を訴える方も多く被災者への支援が持続的かつ効果的に行われる必要がある。」と話した。

J A三重厚生連では、鈴鹿中央総合病院（北村哲也病院長）と三重北医療センターいなべ総合病院（相田直隆病院長）も4日にDMA Tを派遣、鈴鹿中央総合病院、三重北医療センター菰野厚生病院（小嶋正義病院長）、三重北医療センターいなべ総合病院が災害支援ナースを派遣している。



派遣医療チーム

(教来石信彦通信員)